

Ra・Df/Tr

小八郎岳



Ver.1(2020/2/1)

災害伝承 DATA

所在地：長野県下伊那郡松川町上片桐
緯度・経度：北緯 35 度 38 分 14.7 秒
東経 137 度 51 分 36.0 秒

伝承形式：地形
種類 / 要因：岩層なだれ・深層崩壊・
土石流 / 集中豪雨

災害発生：1715 年（正徳 5 年）6 月 18 日

建立時期：不明

指定等：なし

周辺地形：山地



観光情報はこちら

言い伝え・伝説

江戸時代、2度にわたって小八郎岳が崩れました。特に1715年（正徳5年）に「未滴水」という伊那谷を襲った大水害では、崩壊した土砂が土石流となって雨沢川を下り、松川北小学校付近を押し流して田島平から天竜川にまで達しました。

周辺案内

崩落した斜面が遠くからでもよく見える小八郎岳は、トレッキングコースが整備されています。麓にはかつて片桐宿があり、中荒町の瀧泉寺は、徳川家康が江戸に幕府を開く3年前の1600年の創建です。また上町にある清泰寺は、「閻魔様のお寺」として広く知られています。